



編集・発行 山見妙勢能宗蓮
日蓮宗 広報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

自業自得

新實信導

昨年春、痛めた五十肩の症状が一年の月日を経てようやく和らいできた。思えば、痛みは日々が増し、ついに右手で重い物が持てないほどとなり、右腕を上にあげるのが精一杯であった。とくに手を後ろに回すのが辛く、袴を着けるときは、腰の後ろで結ばなければならぬので、激痛との戦いであった。

私が僧侶として駆け出しのころ、老僧の衣の着付けを手伝うことがあった。袴の紐を結び終えたとき、言われた言葉が、「肩が思うように動かないから助かるよ」と喜んでもらえた記憶が今

にして思い出される。

春から秋にかけて痛みが増し、夜中に寝ていても痛みで目を覚ますこともしばしば。冬から春になると、徐々にはあるが痛みは和らぎはじめた。今では少しの痛みはあるが、生活に支障をきたすことはなくなつた。一度は治ることを諦めかけたことを思えば不自由のない生活が如何にありがたいことであるか。本当に仏さまのご利益をいただいた気がしてならない。

ところで、一般に物事が思うようにはかどらずイライラする状態を「業を煮やす」という。業は、仏教用語では梵語(ぼんご)でカルマと言ひ、元々は人間の身・口・意によつて行われ

る善悪の行為のことを意味した。やがて前世の善悪の行為が現世で受ける報いとされ、理性によつて制御できない心の働きを指すようになった。つまり、業は自身で制御できない心の動きや怒りのことなのである。また、仏教では、「この世のあらゆるすべての物事は、自業自得である」とされる。自業自得とは「自分の為した行いの報いは、必ず自分

が受けなければならぬ」とされる。肩を痛めたのも自身の業によるものであり、まさに「業を煮やす」状態であった。しかし今こうして治癒できたのも仏様の功德によるものであると確信する。いかなることがあつても、必ずや仏様のご加護がある信じ、信仰することで善行の功德を積むことができるのではなからうかと。

《法華經に学ぶ現代》 純智庵

世尊は

佛の

智慧に於て

悟惜したもう

所なし

『信解品第四』

知恵の世界は摩訶不思議
悟りを開いた
お釈迦さま
みんなに

それを教えます
お金は使えば減るけれど
知恵は

使えば使うほど
心の袋に貯まります
みっともないのは
出し惜しみ

世のため
うんと使いましょ

「6月の主な行事」

★写経会 13日(日)11時
★清掃の日 15日(火)11時
★月例折願法要 15日(火)13時
★鷗様月例祭 22日(火)15時

◎ご祈祷・ご回向等のお申し込みは、郵便・FAX・メールでも受付けております

※星嶺演奏会・茶論は休止です

「7月の行事予定」

☆七夕祭 6月26日～7月7日
願い事を短冊に書き入れて
妙見様に奉納します

☆虫弘会折禱祭 22日(木)～24日(土)

宝刀「浪切丸」を頭に戴いて
煩惱の虫を払います

★写経会 11日(日)11時
★清掃の日 15日(木)11時
★月例折願法要 15日(木)13時
★鷗様月例祭 22日(木)15時

※星嶺演奏会・茶論は休止です

○いずれの行事も社会情勢により変更する場合があります

○出会の鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

○登山カード押印は中止

○昇堂時はマスク・人数制限等
感染防止にご協力下さい

○送迎車は運行していません

◆ケーブル&リフト毎日運行中

言葉の力

小林 謙照

「うっせえうっせえうっせえわ!あなたが思うより健康です!」

子どもたちが流行曲のサビを楽しそうにマネしています。Ado(アド)というアーティストの「うっせえわ」という曲。毒のある、反骨精神に満ちた歌詞で、社会人のストレスを歌い上げています。正直共感できるところも多いです。が、やはり我が子が「うっせえうっせえ」と連呼していると少し複雑な気持ちになります。言葉の力を侮るなかれ。毒のある言葉遣いが身についてしまうと、知らぬ間に周りの人を嫌な気持ちにさせてしまおうし、同じく毒のある言葉遣いをする人間が周りに集まってしまう。果たして、周りに毒が多い環境は幸せでしょうか。仏教では克服すべき根本

的な煩惱を『三毒』と言います。一は貪欲(とんよく) 〓 際限なく、必要以上にあれこれ欲すること。二は瞋恚(しんに) 〓 怒りや憎しみ嫉妬などの不快な感情を撒き散らすこと。三は愚痴(ぐち) 〓 誤った物の見方、愚かさ。毒づくことは二つの瞋恚にあたります。そして三毒のやっかいなところは、自分では気付かぬにいくという点です。皆さんもうイヤイヤしているときや、どうしても欲しいものがあるときなどは、自分のことも周りのことも見えていないはず。もし、幸運にも自分の中の『三毒』に気付くことができたのなら、しっかりと心の動きを観察して、振り回されないようにお気をつけ下さい。

私も、まだまだ僧侶としても親としても未熟者ですが、子どもたちの模範になるように、できるだけ欲を抑え、怒りを鎮め、愚かな

例年がない早い梅雨入りです。しかも明けの遅くなるという予報。大雨で被害が出ている地方もあり、気が滅入ります。コロナ禍で制限される生活。早くいつもの日常を取り戻したいと願うのは誰しも思っています。ところで「いつもの日常」とは何を願って

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆
いる言葉でしょうか。考えてみれば、今日と明日とは異なるもので、いつもと言っても同じ日の繰り返しはありません。いつもと言う言葉には大難は小難、小難は無難にとの願いが込められているのです。法華経では「少欲にして足るを知る」生き方と説かれています。 K.J

行動をとらないようにしたいと心掛けています。度重なる自粛要請で、あれはダメこれはダメと言われ、いい加減に「うっせえわ」と言いたくなるこの頃ですが、毒を吐くのは毒を飲んでいけると同じ事。食べ物を作るように、言葉は心を作ります。こんな時こそ、お釈迦様が我々に残して下さった法華経という良薬を飲んで、心穏やかに過ごしましょう。

新型コロナ対策について
・ 祈禱ご回向は、昇堂人数制限の上、開始時刻を設定
**ご祈禱 〓 9時半・10時半・11時
12時・13時・14時・15時**
ご回向 〓 11時半・13時半
※開始時刻の30分前までに、受付窓口へお越し下さい
※ご参拝の際はなるべく事前のご連絡をお願いします
※ご祈禱・御回向等は、郵便・FAX・メールでも受け付けております ご利用下さい

法華経茶話Ⅱ

渴愛と無明

様々な欲望が執着を生み、苦を引き起こすと考えられるので、この欲望を制御することが、仏教の実践的なテーマとなります。

仏教では、欲望の背後には、喉の渴いた者が激しく水を求めるといったような衝動が考えられます。それを「渴愛」といいます。渴愛には三つの種類があります。①欲愛(日常生活での物事への欲求) ②有爱(生存に対する欲求。この世でも来世でも良い生を送ろうとする欲求) ③無有爱(生存に対して意義を見出さず、敢えて生存を絶とうとする欲求)です。
このような渴愛は、釈尊の教える真理を知らない状態であり、その教えを知らないことが迷いと苦の原因であると考えられるようになります。このような無知を「無明」といいます。